

■Ruby 国際規格化の経緯

- 2008年11月 : IPAにRuby標準化検討ワーキンググループ設置。
中田 育男 筑波大学名誉教授を委員長とし、Ruby処理系の開発者、Rubyの利用者、標準化の専門家等からなるワーキンググループをIPAに設置し、英文にて仕様書の作成を開始。
- 2009年12月 : Ruby仕様書案について、Rubyコミュニティから意見募集。
～2010年4月
- 2010年4月 : Ruby仕様書説明会及び再度のコメント募集
国際規格化の関係者、Rubyコミュニティの人々に対して、Ruby仕様書の説明会をニューヨークで開催。再度コメントを収集、仕様書に反映し英文仕様書案を完成。
- 2010年4月 : 英文仕様書を日本語化し、JIS原案の草稿を作成。
- 2010年5月 : 日本規格協会でのレビューを経て、JIS原案文書を作成
～2010年10月
- 2010年10月 : 経済産業大臣に対して、JIS化を申し出。
- 2011年3月22日 : JIS X 3017（プログラム言語Ruby）制定。官報公示。
- 2011年3月22日 : 日本工業標準調査会を通じて、ISO/IEC JTC 1に対し、ファーストトラック⁽¹⁾による国際規格化を提案。
- 2011年4月 : ISO/IEC JTC 1が国際規格案に対してDIS投票⁽²⁾を実施。
～2010年9月
- 2011年9月 : DIS投票の結果、最終国際規格案を策定し承認行程に進むことが承認された。
- 2011年12月 : 国際規格案に対してDIS投票時の指摘に対応した修正を行い、最終国際規格案としてISO/IEC JTC 1中央事務局に提出。
- 2012年1月 : ISO/IEC JTC 1が最終国際規格案に対してFDIS投票⁽³⁾を実施。
～2012年3月
- 2012年3月31日 : FDIS投票締め切り。
(中央ヨーロッパ標準時)

⁽¹⁾ ファーストトラック：国際規格の策定には、ISO/IEC JTC 1にて、新規作業項目の提案から始め、何度かに渡る各国代表による投票を経て国際規格となる、一般的な策定手順と、既にある国の国内規格となっている規定を、そのまま国際規格として認めるファーストトラックによる策定手順がある。ファーストトラックでは、2回の投票により国際規格となるため、国際規格となるまでの期間が一般的な策定手順より短い。

⁽²⁾ DIS (draft International Standard) 投票：ファーストトラックにおける2回の投票のうち1回目の投票。国際規格案に対して投票が行われ、承認行程に進むかどうかを決定する。

⁽³⁾ FDIS (final draft International Standard) 投票：ファーストトラックにおける最終投票。最終国際規格案に対して投票が行われ、国際規格として承認し、発行行程に進むかどうかを決定する。